

☆大阪人権博物館（リバティおおさか）見学・グループ討議

大阪人権博物館は「自他を尊重し、豊かな人権感覚を育むための調査研究や、資料・文化財などの保存や展示公開により、人権意識の伸長と啓発及び人間性、社会性の養成に資することを目的とする」（同館WEB「概要」より）という目的により、1985年（昭和60年）にオープンし、数回の展示リニューアルを経て現在に至っております。豊能地区初任者・新規採用者研修においては、教職員みなさんに、人権についての視野をより広げ、日常の業務や授業について活かして欲しいということで、この博物館を会場としての研修を行っております。

今回の研修では、小1時間の見学の後、豊能町教育委員会教育支援課、内野 慎也 主幹の進行のもと、グループ討議を行い、学びを深めました。



☆展示見学・グループ討議から、印象に残ったこと・感想

話し合いの中では、「知らず知らずのうちに差別になっている状況」について考えさせられ、日々の意識から考えるような努力をしたいと思います。そうした姿勢を子どもたちに見せることで、子どもたちも変わるのではないかと考えています。

「先生、話を聞いてほしい。まちがったことをしていたら謝ってほしい。決めつけないでほしい」という思いが綴られている展示を見て、子どもを一人の人間として大切に、子どもと向き合っていくための原点を振り返ったような気持ちになりました。

いじめのブースはかなり衝撃を受けました。原因が子ども同士だけでなく、私たち教師にもあるということについては、明日からの自分の言動・行動を見直し、改めなくてはならないと感じました。

教科書に載っていない、当事者の生の声を見ることができた。身の周りに目を向けて見識を広げていきたい。

同じ展示物を見てもさまざまな見方があることに気づいたり、また自分が思いもよらなかった見方や気づきに出会ったりしたのではないかと思います。見学 → 討議 → さらに自分で調べ、比較検討等していただくことにより、視野は広がります。



☆教職員として、取り組んでいること、今後取り組みたいこと

「あなたのことが大好きだよ」という言葉を先日子どもにかけました。今まではそれを声に出して伝えていなかったことで、不安にさせてしまっていたのかもしれないという反省からです。これからも「大切」ということを言葉にして伝えていきたいです。

私自身、子どもを注意する時、悪いことに対し注意しているのだけれども、子どもが嫌だな、しんどいなと捉えていないか、子どもの気持ちを大切にしているのかと考えました。もっと子どもと寄り添えるようになりたいです。

今回の研修では数ある人権課題について、また他の先生方が意識されて取り組んでおられることについて、私自身としては大きな学びがあったと感じています。これを事務職員という立場からどうアウトプットし、子どもたちの気づき・学びにつなげていくのかということについては、今後考えていかねばならないと思います。

どの班も学校（クラス）等の現状をふまえた取り組みについて、活発な意見が交わされていきました。着任して7か月、前回（5月）「人権について考える①」研修時よりも成長したみなさんの姿がありました。

「こうありたい」と願うことや、「今、こうしてやっています」ということを、言葉にして確認することは、とても大事なことです。協力者はみなさんの周りにたくさんいます。内野主幹の言われた「つながり」と「きずな」を時に思い出しながら、さらなる取り組みをすすめて欲しいと思います。